

農繁期 レポート

令和6年 8月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

雨の降らない日が1ヶ月あったと思いますが、稲に水が必要な時期だったので、日に日に少なくなる山からの水を田んぼ数枚ずつ順番に入水をしてなんとかしのぎました。カメムシの防除は雨が降らない代わりに好天でタイミング良くできました。例年より早い生育をしている様に見えますのでもうすぐ稲刈りがはじまります。

8月の作業内容と稲の生長

1. 出穂 (しゅっすい)

茎の中で籾の集合体としてできた「穂」がさやを割って飛び出した状態を出穂と言います。最初は真っすぐピンと上に伸びています。その後すぐに花が咲き、受粉した籾がお米へと徐々に変化していきます。



2. 出穂後の稲-1

出穂後の晴天がお米を作ります。日中に葉で光合成が行われ、出来たブドウ糖が夜稲に送り込まれデンプン=米になります。山間部は昼夜の寒暖差が大きく夜の気温が低いのでデンプンが消費されず蓄積して美味しくなります。



出典:JAグループ

3. 出穂後の稲-2

デンプンは最初ドロドロとしたミルク状の液体で徐々に固まっていきお米になります。固まると重たくなって穂が垂れ下がり、同時に籾の色も黄金色に変化します。よく言われているのは穂が出てから1000度が刈取り適期です。



4. カメムシ防除

穂が出揃う時にカメムシ防除を行います。畦付近の草から田んぼに侵入し、奥まで飛ぶことは少ないので周辺を重点的に対応します。カメムシを放置するとお米の品質や見栄えが悪く、商品にならなくなるので必須作業です。

